

中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年7月31日現在

今月の重点活動

■スマート農業 **ドローンによる農薬散布の作業性調査**

関市武芸川町の農業法人では、病虫害防除作業の省力化とコスト削減のため、薬剤散布用のドローンを平成29年度に導入し、7月中旬から9月中旬にかけて水稻病虫害の防除を行っている。

農業普及課では、ドローンの作業効率や防除効果を調査するため、飛行速度や感水紙による薬剤飛散状況等の測定を行った。その結果、中山間地域で圃場が隣接していない場合の薬剤散布時間は10アールあたり1分15秒で、薬液は均一に散布されていた。

農業普及課では、スマート農業技術を導入する管内の稲作経営者に対して、引き続き情報提供及び技術支援を行っていく。

(地域支援係)



【飛行速度測定の様子】

売れるブランドづくり

■水稻採種 **採種ほ青空教室を開催**

美濃市内の「あきさかり」、「ほしじるし」、「あさひの夢」、「モチミノリ」の採種ほ等を対象とした水稻青空教室が、7月1日より順次開催された。

農業普及課からは、種子生産にとって重要な穂肥時期を迎えることから今後の肥培管理等について説明した。また、本年の生育状況は、草丈と葉色は昨年より高いものの、分けつがやや緩慢気味で推移し、7月になって出穂前にもかかわらず、ほ場でカメムシが散見されたり、いもち病の初発が見られるなどしたため、併せて適期防除も呼び掛けた。

農業普及課では、今後もJAめぐみのと連携して良質な水稻種子生産に向けて取り組んでいく。

(地域支援係)



【青空教室の風景】

■夏秋なす **夏秋なす部会中央研修会の開催**

7月28日、県園芸特産振興会夏秋なす部会中央研修会が開催され、県下各地区振興会員（生産者）、JA担当者、県関係機関等から管内8名の生産者を含む計49名が出席した。

海津市内の夏秋なすハウスで開催された現地研修では、収量・品質を確保した長期穫りのための栽培管理のポイントについて、名人生産者の技術を学んだ。また、その後JAにの海津中支店で行なわれた室内研修では、革新専門支援員が、安定した収穫を確保する樹勢コントロール法等について講義し、海津ナス部会長を交えて質疑が行われた。参加者は熱心に研修に取り組み、積極的な質問が出された。

農業普及課では引き続き県なす部会と連携し、管内夏秋なす生産協議会、生産出荷組合を支援していく。

(地域支援係)



【現地研修の様子】

■ GAP 実践者 **岐阜県 GAP 維持審査の実施**

7月15日、管内の米生産者に対し、岐阜県 GAP 維持審査を実施した。審査では、書類の確認に加え、現地にて資材や機械保管庫・農産物取り扱い施設の確認を行い、適切に GAP を実践しているか否かを確認した。また、7月28日には、今後の県の GAP 確認制度の在り方について、関係者を交えて意見交換を行った。

農業普及課では、食品安全、環境保全、労働安全に配慮した農業の実践である GAP の取組みを広く推進していくため、今後も関係機関と連携を図りながら支援を行っていく。



【県 GAP 維持審査の様子】

(地域支援係)